

2026 年 4 月 14 日

供給危機を受けての LNG 供給セキュリティ確保と多様化のあり方

一般財団法人日本エネルギー経済研究所
資源・燃料・エネルギー安全保障ユニット
上級スペシャリスト 橋本 裕

中東での軍事衝突に端を発する現在進行中のエネルギー供給危機は、LNG・天然ガスについてみると、次の点が特色として指摘できる。

1. 過去エネルギー・天然ガス供給が逼迫した際には、フレキシブルな LNG 供給が市場をバランスする救世主のひとつとなったが、今回は LNG 供給の一時的欠落分を、他の LNG 供給あるいは他の天然ガス、他エネルギー供給・消費節減手段で補う必要がある。
2. 史上初めてホルムズ海峡が封鎖されたことに加え、大型 LNG 輸出設備が軍事攻撃により破壊されたことも史上初めてとなった。
3. LNG 市場の当事者・当局ともに供給源多様化の重要性を認識してきたが、歴史的な発展経緯・立地状況の違いにより、ホルムズ海峡経由 LNG 供給に対する各市場の依存度・供給中断から受ける影響に格差が生じている。供給源多様化を実現してきたとしても、グローバルレベルの大規模な供給欠落の場合には、需給インバランスから生じる価格ボラティリティによる打撃から逃れられない。

この状況に鑑みて、LNG 産業・関連諸国が克服すべき課題として、以下の分野を指摘することができる。

1. LNG 物流・輸送面の脆弱性克服対策

ホルムズ海峡の封鎖により LNG 物流面の脆弱性が顕在化した。原油と異なり、中東ガルフ地域内の LNG 生産設備からのアウトプットを同地域外に運ぶ代替手段がない。近年は米国ガルフ地域からアジア市場への LNG 輸送長距離化、パナマ運河航行のキャパシティ上限や渇水による通航の制限、紅海・スエズ運河航路の航行困難により、LNG 輸送の最適化の必要性は認識されていた。今後も迂回航路確保、運航コスト上昇への対応が重要であり、最適化のための太平洋・大西洋をまたがるパートナーシップの有効性が高まる。また海上輸送保険料の高騰や戦争保険の付保制限には、産業界としての対策が必要となっている。中東ガルフ地域外への陸上パイプラインによる輸送も含め、輸送代替策の再評価も現実化する。緊急時の相互融通等、物流リスクを共有する国際的枠組の検討も有効となる。

2. LNG 価格面でのリスク管理の見直し

市場ショック・価格高騰に対して、LNG デリバティブ市場の機能強化等、消費市場側の企業や公的機関が取り得るヘッジ手法の検討も重要となる。さらにリスク低減のための、長期契約とスポット市場調達最適バランスも引き続き検討材料となる。

危機発生以降、原油価格高騰が目立ちながらも、スポット LNG・スポットガス価格が原油価格以上に高い水準に上昇した。さらにアジアのスポット LNG 価格が欧州のスポットガス価格を上回る傾向に転じた。一方で短期的なスポット価格の変動幅に関しては、4月上旬まででは 2022 年の急騰状況に比して小さい範囲に留まる展開である。

3. リスク顕在化を受けて供給源分散化の一層の重要性

ホルムズ海峡経由の LNG 供給への依存度は、総 LNG 供給に対して世界全体では 2 割程度だが、欧州は 1 割程度である。これに対してアジアは 4 分の 1 と相対的に高いことがよりアジアでの大きな影響につながっている。特に南アジアのホルムズ依存度が総 LNG 輸入の 6 割強と高い。但し総ガス消費量比では、ホルムズ依存度は世界平均 3%、欧州 4%、全アジア 10%、南アジアは 4 分の 1 程度である。北東アジアの中では、日本 6%、韓国 15%、台湾 3 割程度とばらつきがある。中国は総ガス消費中ホルムズ依存度 6%程度だが、国産ガス供給・パイプラインガス輸入の代替手段を持つ。なお欧州は、ホルムズ経由の LNG 輸入について、2022 年をピークに数量面でも、総 LNG 輸入中、あるいは全ガス消費量中のシェアでも低下させてきたが、並行して米国産 LNG 輸入が増加し、2025 年には欧州 LNG 輸入総量中の過半を占めるに至った。

今後も、「単一巨大プロジェクトへの依存」から「多数のプロジェクトから分散調達」が指向されることとなる。また個別サプライチェーン全体のレジリエンス評価が肝要となる。ガルフ地域に加え西海岸も含めた北米、さらに東アフリカ等のプロジェクト開発進展が注目される。ロシアの供給源をどう位置付けるかも焦点となる。

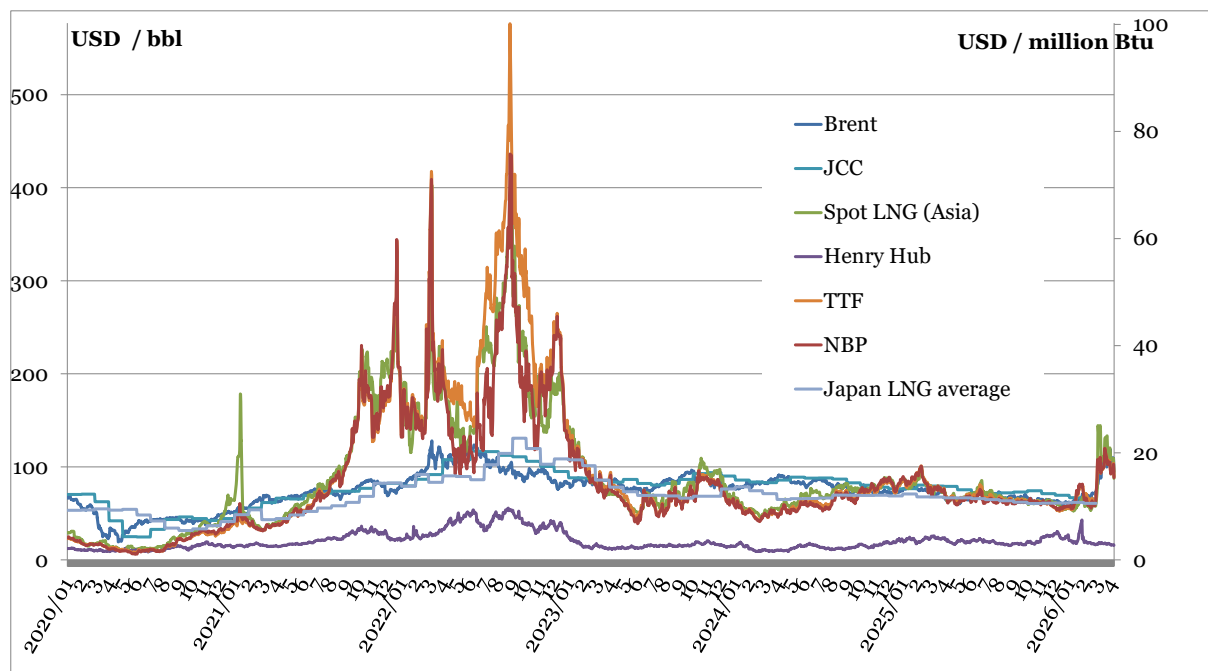
4. GHG 排出削減・管理対策との整合性・バランス

今回の危機は、安定供給確保と GHG 対策のバランスの見直しを必然化する。金融機関による化石燃料プロジェクトへの投融資基準の検討、エネルギーバリューチェーンにおけるメタン・GHG 排出削減対策検討・推進、LNG のトランジション、さらにはデスティネーション・エネルギー源としての評価にも変化は必然である。EU ではメタン規制などの気候変動政策の具体的実施策、アジア太平洋では LNG バリューチェーンのクリーン化取り組みが焦点である。

お問い合わせ: report@tky.ieej.or.jp

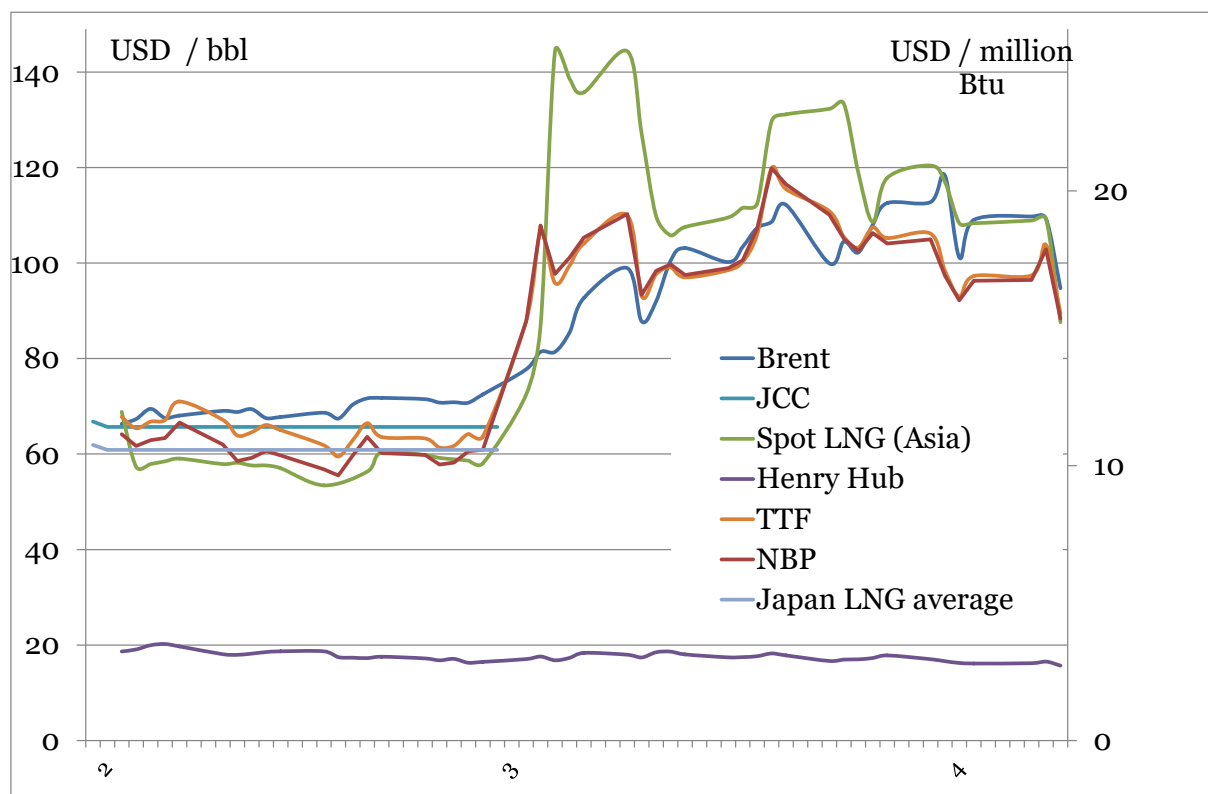
[参考]

スポット LNG・各地のスポットガス価格推移



(出所) 取引所・貿易統計データに基づき作成

2026 年 3 - 4 月の変動は激しいが、変動幅は 2022 年よりも小さい。



(出所) 取引所・貿易統計データに基づき作成

2026 年 3 月初旬にスポット LNG・スポットガス価格が原油価格を上回った。
同月上旬にアジアスポット LNG 価格が欧州スポットガス価格を上回った。